斉藤さん宅 東京都[illegible]

「夫婦の会話を楽しむ」ためのキッチン
実はデザインしたのは、なんと奥様なのです

あえて「生活感を隠す」キッチンに仕上げています

生活感のある、ごとく付きのコンロではなくフラットなIHヒーターをセレクト。こだわって[illegible]

[illegible]

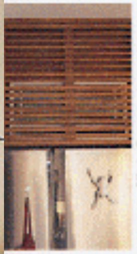
お金のかけどころ、抜きどころをしっかり吟味してあります

ダイニングテーブルでもあるカウンターには、コンセントのほかに、インターネット用の回線のアウトレット、そして[illegible]ます。

打ちっぱなしのコンクリートに[illegible]

天井までのドアをスライドさせるとこ[illegible]

スペースをムダにしない収納でキッチンを広々と



[illegible]

ホームパーティに欠かせない小物です

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

都心の築30年の中古マンションを全面リフォームした斉藤邸。基本コンセプトは「ベッドルームは狭くても、広々としたリビング」。

「以前住んでいたマンションのキッチンは独立型で、夫人は籠り切りでした。将来は子供を見守りながら、走りまわれるようなオープンキッチンが理想でしたね」と夫婦。そしてご主人も『二人とも忙しかったので、夫婦のコミュニケーションの時間がない。以前は、彼女がキッチンに入ってしまうと話もできませんでしたからね。今のスタイルなら、食事の仕度のときも、後片付けのときも同じ場所にいるので、一緒の時間が増えた気がしますね』とこのキッチンに合格点。実はこの理想的なキッチンもリフォーム全般は夫人のデザイン。

生活感が目立たないように、IHヒーターにし、カウンターをフラットに見せるなど細やかな配慮を重ねることで、単なる